

とままえ



風かおる
人が輝き
躍動するまち



まちひと百景

元気いっぱい ナイスショット！

旭にお住まいの石川一好さん。お年は96歳。
毎日のゲートボールは欠かさず自転車で通い、
家事も自分でこなしているということ。
この日のゲートボール大会でも、今年一番では
と思う暑さの中でも、涼しい顔でナイスショットを
連発。

やっぱり元気が一番。これからもお元気で！

- 苫前町議会だよりNo.80・・・2～5
- チャレンジデー2010ほか・・・6
- 火の用心杯パークゴルフ大会・・・7
- 運動会・体育大会、文芸・・・8
- 地域社会貢献事業・・・9
- 健康ばんざい・・・10
- 国民健康保険・後期高齢者医療ガイド・・・11
- 国民年金、ファイヤー通信・・・12
- まなびの広場・・・13
- 住まいる情報・・・14～15
- ちびっこギャラリー・・・16

苫前町
議会だより
合併号

まちの人口

人口／3,655人(男／1,711人：女／1,944人)
世帯数／1,647世帯 (6月30日現在)

URL:<http://www.town.tomamae.lg.jp>

苫前町議会

2010

議会報発行特別委員会

議会だより

7
No.80

苫前郡苫前町字旭37番地1 TEL64-2385

委員 長 猫島 優
副委員 長 西 志
委 員 青木 大
// 渡部 幸
// 小倉 一
// 田沢 哲
// 収

平成22年 第2回定例会

一般会計補正額 1億9,550万円を追加
総額35億8,203万円

平成二十二年第二回定例会は、六月十六日開会され、町長提出の予算七件、条例七件、人事一件、報告三件、承認二件、その他七件、意見案二件の合計二十九件を原案どおりに可決し、十七日閉会した。

補正の主なもの

・地上デジタルテレビ放送共聴施設整備工事	1億2,704万円	追加
・高品質堆肥製造施設整備事業補助金	820万円	追加
・糞摺機導入事業補助金	1,206万円	追加
・衛生管理型(定温)荷捌所整備事業補助金	3,666万円	追加
・住宅リフォーム促進助成事業補助金	200万円	増額

国民健康保険特別会計	713万円追加	総額	5億6,258万円
老人保健特別会計	14万円追加	総額	78万円
介護保険特別会計	1,410万円追加	総額	3億9,507万円
簡易水道事業特別会計	8万円追加	総額	1億6,898万円
下水道事業特別会計	680万円追加	総額	2億9,578万円

苫前町史編さん委員会条例

新苫前町史編さんに必要な事項を調査審議する付属機関を設置するために、条例制定するもの
固定資産評価審査委員の選任に同意しました
古丹別 菊地 暢氏(再任)

主な質疑内容

質 西 議員

町史編さん委員会委員の選定方法はどうか。緊急雇用対策でケアマネージャーの雇用を創出するが、業務は従来の業務か、新たな業務があるのか。

答 山田総務財政課長

委員の選定は、町職員及び教員二名、議会議員二名、産業団体役員三名、学識経験者三名を予定している。学識経験者以外は、各団体に推薦を依頼したい。また、任期中で各団体から推薦された委員が交代となったときは、町の方で編さん委員も交代の手続きをすることになる。

質 小丹保町民課長

従前からの介護サービス計画の作成などが主なもので、専門職としてのスキルアップを図ることも考えている。

質 青木議員

牧場費において、臨時人夫賃の計上があるが、現在町内で募集している人員の関係か説明を願いたい。

答 伊藤農林水産課長

職員の退職などの関係もあり、6月からの繁忙期における牧草の刈り取りや入牧などの業務が多くなるための賃金補正である。

質 林 議員

牧場費の臨時人夫賃は、五月の臨時会に提案できなかったのか。六月一日から雇用しているが、予算の執行として問題はないか。

答 伊藤農林水産課長

節内の既定予算で対応したため、六月議会での補正を考えていた。

質 田沢議員

地デジ共聴施設工事の工期はいつまでなのか。水産振興費の旅費のうち普通旅費と特別旅費の区別は何か。

答 平井企画振興課長

地デジ共聴施設工事は八月から開始し、十二月に工事を完了予定している。

答 伊藤農林水産課長

普通旅費は職員、特別旅費は職員以外の者の旅費になる。

委員レポ

全員協議会

平成22年
6月2日
開催

①地上デジタル放送共聴施設整備事業について
地上デジタル放送への完全移行に対応するため、町内難視聴地区の解消に向けて、受信可能な施設に構築するための施設整備費の補正

②過疎地域自立促進市町村計画の策定について
現行法の失効期限延長に伴う計画策定についての説明

③苫前町国民健康保険条例の一部改正について
地方税法等の一部を改正する法律による改正等に伴い、基礎課税額の限度額の引き上げ

④苫前町住宅リフォーム促進助成事業補助金の補正について
当初、十件二〇〇万円を二十件四〇〇万円に変更

⑤苫前町税条例の一部改正について
所得税の年少扶養控除廃止に伴う扶養親族の情報収集に関する根拠を定め、現行の仕組みを維持

⑥北るもい漁業協同組合苫前支所衛生管理型(定温)荷捌所整備事業について
荷捌所の老朽化に伴い、全国で初の試みである雪冷熱を利用した施設整備を協議



⑦下水道整備の補正について
国の行政刷新会議の事業仕分けによる補助金の廃止に伴い、社会整備資本総合交付金へ移行されたことに伴う歳入科目の変更

⑧留萌地域電算共同化推進協議会について
留萌地域の各市町村では町村

単位で行政サービスや業務改善を図ってきたが、結果的に多額の経費を費やしている。このため電算共同化に向けて協議検討の組織として本年四月一日設置

**産業厚生
常任委員会**
平成22年
6月2日
開催

①経営対育成施設整備事業
蔬菜の撰果の際発生するクズが年々増えて処理に苦慮している。これらのクズ類を処理するため微生物資材を用いて有用発酵させ牛糞堆肥と混合活用することで、良質な堆肥の提供が可能となるほか、圃場への還元が可能となる。

「クリーン農業」の推進にも繋がることから本町農業が取り進めている本施設を整備
整備内容
高品質堆肥施設整備事業
事業主体
苫前町農業協同組合
事業費 一、七八五万円

②人口造林地間伐工事について
「苫前町特定間伐等促進計画」

に基づき、除間伐が必要な町有林を整備するため昨年実施したが、行政刷新会議にて、この事業は「廃止」となり、今年度から新事業として森林整備加速化・林業再生基金を活用
事業主体 苫前町
事業内容 間伐対象面積 十一、四ヘクタール
事業費 二八二万円

③苫前町水産物ブランド化プロジェクト
地元で陸揚げされた新鮮な水産物の提供と、それらの食材を生かした料理の研究開発及び提供により、地元産業の振興を図る
事業主体
水産物ブランド化
苫前町、漁協
料理開発事業
大新東(株)、漁協
特産品販路開発事業
苫前町、漁協

**総務文教
常任委員会**
平成22年
6月2日
開催

①苫前町国民保護計画の変更に
北海道の国民保護計画の一部変更に伴い、苫前町国民保護計画の基本指針の変更、市町村相

互応援協定の再締結等の計画箇所の一部変更
②苫前町職員の育児休業等に関する条例等の一部改正について
地方公務員の育児休業等に関する法律の一部改正に伴い、苫前町職員の育児休業等に関する条例について、所要の改正を行う

③苫前町ふるさと応援寄付金について
平成二十一年度ふるさと応援寄付の実績
十件 三〇三万四千元

④苫前町史編さん委員会条例の制定について
現行の苫前町史が発刊後約三十年経過し、新苫前町史の編さんに着手するが、編さんに必要な事項を調査審議する付属機関として設置するための条例



一般質問

4氏が登壇！

環境・住宅政策・流雪溝・広域電算化

未来の子どもたちに

残すべき環境



西 議員

自然環境活動を軸とした施策の展開について

- 一、まちづくりの活動との連動性について
- 二、地域内での振興策としての連動性について
- 三、エコエネルギーに対する町民への理解の浸透と発展性について
- 四、社会教育など教育における位置づけについて

これらに対して具体的な進展があればお聞きしたい。また、進行管理上の体制についてはどう考えているか。



答弁 森 町長



一、地域内の環境保全施策の推進状況については、風力発電を基盤として地球温暖化対策に向けた取組み、更には下水道整備や魚道整備、海岸漂着物の処理対策をはじめとする水循環の確保や景観保全に向けて、多角的に進めていかなければならないと考えている。

二、海岸漂着物の処理対策は「北海道グリーンニューデール基金事業」の継続、制度の見直しを北海道知事へ強く要請した。また、カーボンオフセット募金制度も引き続き検討していく。

三、風車発電キットなどを活用した環境教育の実践、風車ウォーキング事業等を展開して、更に環境学習を実践したい。

四、社会教育活動と連動を図りながら環境問題について考えたリアル感できる取組みを進めていく。

環境や景観に対する現状を把握、現在、各課が取り組んでいる事業や施策を再確認しながら、

ら、本町にあった環境政策などを包括的に推進できるよう、地域住民が一体となった環境基本計画などの策定に向けて検討していく。

集約化や利用しやすい住宅を目指して



田 議員

現在、本町には苦前地区に運営住宅の「オリオン団地」を始め、「北斗団地」「はまなす団地」「西団地」「南団地」「港団地」「古丹別地区」には「天竜団地」「川添団地」「商工団地」「北星団地」「東団地」など多数の団地があり、多くの町民が入居している。

このような状況で苦前地区は大半が入居しており入居率は比較的高いと感じているが、古丹別地区はかなりの空き家があるのが実態である。中でも天竜団地や川添団地の空きが目立っている。今年度から天竜団地のエリアで下水道の接続工事も始まっている。

そこで次の二点について答弁いただきたい。

一、多額の工事費を投入して下水道の接続工事を行う訳だから、入居基準や家賃等の問題もあるが、空き住宅へ他の団地入居者を入居させることができな

いのかどうか。或いは町として何らかの策があるのかどうか。

答弁 森 町長

二、昨年度、国の交付金を活用して実施した「港団地」のように、苦前地区の「南団地」や古丹別地区の「北星団地」「東団地」のように建設年度が古く、飛び飛びに入居している団地を補修して、何棟かに集約して入居させるようなことはできないか。

一、天竜団地や川添団地において空き家の増加が見られ、まちづくりの観点からも良好とは言えない。

その解消方法として新規入居者や他団地からの移転が有効な手段であるが、平成二十年度の制度改正によって全国一律に入居可能な所得範囲が狭まっています。昨年度の政権交代で地方分権推進計画が進み、入居基準などの公営住宅制度の見直しが検討されており、これからの展開を注視しながら取り組んでいきたい。

二、低家賃の団地入居者には高齢者が多く、生活の継続性で安定性には慎重で十分な配慮が必要である。集約する住棟の修繕には多額の費用がかかることから、港団地のように跡地の有効活用など事業効果も重視したい。更に、既存団地の改善は交付金事業で手当てできる方策もあるが、ストック全体の活用計画の策定が要件となっており、本町の財政状況、人口動態の流動性を踏まえ、最適の策定期を待ちたい。

一、流雪溝を設置した当時から利用世帯が減少しているが、その効果は明らかであり、この先も住民に協力を願いたい。

二、中央監視施設の機器は部品交換して使用している。機器一式を変える考えはないが、負担が大きくなるように計画をたてたい。

労力費の助成は、金銭的に非常に難しいと思う。しかし、実情は十分に理解する。昨年も作業にあたる住民が減少し、車道幅員が著しく狭くなって車両通行に支障をきたしている箇所は、排雪時に幅員確保に努めるなど、措置は行っている。

変化してきた流雪溝 利用にどう対処するか



青 木 議員

冬季間の除雪に伴う流雪溝の管理及び作業方法について

一、人口の流出、高齢化に伴い除雪を行う住民が激減している。このまま継続し町民に協力を求めるのか。

二、中央監視施設の各機器は十四年を経過した。これを換える費用と計画を伺いたい。また、除雪が困難な住民に対し、労力助成を求めたい。

答弁 森 町長

一、流雪溝を設置した当時から利用世帯が減少しているが、その効果は明らかであり、この先も住民に協力を願いたい。

二、中央監視施設の機器は部品交換して使用している。機器一式を変える考えはないが、負担が大きくなるように計画をたてたい。

労力費の助成は、金銭的に非常に難しいと思う。しかし、実情は十分に理解する。昨年も作業にあたる住民が減少し、車道幅員が著しく狭くなって車両通行に支障をきたしている箇所は、排雪時に幅員確保に努めるなど、措置は行っている。

利用する住民が減少しているのは、明らかであり、この投雪作業に対応できなくなる事態を考え、流雪溝管理運営協議会と検討していきたい。

広域で効率的な電算 システムのあり方



猫島 議員

留萌地域電算共同化について
一、電算共同化事業の内容について
二、利便性と経費の削減が主眼だが、シミュレーションは
三、今後のタイムスケジュールは

答弁 森 町長

一、七町村での電算共同化を実現するにあたっては、すでにシステムの更新時期を迎えている状況にある町や行政システムに広い専門知識が必要となることから、短期間に基本計画を策定することが必要になってきている。これらの問題点に対応できる企業を選定し、本年度、基本計画を策定、二十四年度から段階的に電算システムの共同化を図る。基本計画策定業務は電算処理環境の現状調査、問題点・課題の整理、運用面を含めた共同化の方向性、費用対効果の分析、

星野恭司議長が自治功労表彰受彰



町村議会議長として7年以上勤務された方を表彰する北海道町村議会議長の自治功労表彰で、本町の星野恭司議長が自治功労者として表彰され、議会開会前に林秀行副議長より表彰状の伝達が行われました。

構成町村個々の現行資産の取扱いなど。
二、十二月ごろに基本計画の骨格が示され、概算事業費も提示される。現段階では具体的な削減額を言えないが、費用対効果は計画の最重要項目となっている。
三、本年度、基本計画・実施計画を策定、ベンダー(システム導入業者)を選定し、二十三年度はシステムの開発、ネットワークの構築などを行い、二十四年度から共同化する。現在の計画では、二十四年度は「住民情報系業務」二十五年度は「税・保険関係・福祉業務」の中から優先順位を設定し共同化を図る予定である。

臨時会

四月十四日開催

・一般会計補正予算
郷土資料館修繕料

四三万円 増額

・国民健康保険特別会計補正予算
国民健康保険システム改修業務委託料

一六三万八千円 追加

五月十三日開催

・一般会計補正予算

栄養教諭を中核とした食育推進事業

七三万七千円 追加

昭和台台一号線道路災害測量調査設計業務委託料

三三万七千八百円 追加

六月二十五日開催

・一般会計補正予算
地域ぐるみの子ども読書活動推進事業補助金

六三万三千元 追加

公有林整備債繰上償還

二、五五〇万円 増額



ブックフェスティバルの様子

編集雑感

今月中盤以降の新聞、テレビ等のマスコミ報道は、七月十一日投票の第二十二回参院選とサッカーのワールドカップ(W杯)決勝トーナメント進出を決めた日本が、初のベスト8入り(日本時間十一時)からパラグアイとの対戦に注目が集まり、グループリーグを突破の喜びと安堵の無いはずがないものと私は強く感じております。

前回ドイツ大会で決勝に進んだイタリア、フランスの両強豪が姿を消したように、わずかに三試合で雌雄を決する厳しさは、外部の想像をはるかに超えているものではないでしょうか。

スポーツにしても政治にしても本人のやる気はもとより、国民の心からの応援が大切だと思います。

(猫島 記)

届け意見!! 政府に意見書を提出

○北海道農業の発展に必要な生産基盤整備等に関する意見書

国の本年度の予算編成で農業農村整備事業予算は、新たに創設された交付金を合わせても要求額の概ね6割と大幅な削減となった。

このため、地域が切望する農地や水利施設の計画的な更新・整備が遅れ、地域からは今後の営農計画・農家経営の影響を懸念して、予算確保の要望がある。

本道農業・農村の担い手が、将来にわたり、意欲と希望を持って営農ができるよう、実効ある施策が実現されるよう要望する。

○ワクチン接種に関する意見書

我が国では毎年、千人以上の5歳未満児が細菌性髄膜炎にかかっている。細菌性髄膜炎は、小児科医でも一般的な風邪と見分けにくく、早期診断は困難であり、非常に予後の悪い疾患である。細菌性髄膜炎はワクチン接種で予防することが可能である。

また、子宮頸がんは、年間で約二万五千人が発症し、三千五百人が死亡している。ほかのガンとは違い予防が可能な病気であり、若年層へのワクチン接種が有効とされている。

道民がいつでも安心してワクチンが受けられるよう北海道知事に対し、要望をする。

2年ぶりの勝利!

北海道対決を制す! チャレンジデー2010

5月26日(水)に町内一円で行われたチャレンジデー2010において、本町の参加率が72.8パーセントで対戦相手の北海道礼文町の62.4パーセントを大きく上回り、勝利を収めた。また、風力発電スペシャルマッチとして例年対戦している岩手県葛巻町も65.7パーセントだったことから、こちらの対戦にも勝利、礼文町・葛巻町のマチに、苫前町の町旗が掲揚された。

本町では、全町的な実行委員会を組織し、住民の自主的な活動の参加を促すとともに、各スポーツ団体へ協力として、団体独自の催しの実施を依頼した。また、実行委員会でも玉入れ選手権や全国共通イベントとしてダブルタッチ、大縄跳びなどの実施や、参加特典として「とままえ温泉ふわっとギフト券」や「礼文町特産品」などの贈呈、17の町内会で最高参加率だった地区にヘルスメーターの贈呈などの取り組みなども積極的に実施したことが、今回の参加率につながったと思われる。

また、体育協会加盟団体独自の催しでは、町軟式野球連盟(小野好会長)による特別軟式野球大会、町バドミントン協会(伊藤通康会長)ではバドミントンの競技体験、ストレッチ愛好会(池田功会長)ではストレッチの1日体験など行われ、古丹別幸楽会(小松谷悟会長)ではふまねっと体操、苫前中学校(半澤豊秀校長)では大縄跳びなどが実施された。

実行委員会では、「去年は73パーセントの参加率で惜敗したが、町民の健康づくりの輪を広げようという目的が浸透しつつある。来年も勝利できるよう取り組んでいきたい」と述べていた。



まちをきれいにしよう! —フラワースマイル事業—

5月29日(土)にフラワースマイル事業が苫前地区は郷土資料館前、古丹別地区は西2条線(公民館前)で行われ、約120名が参加、花壇整備、花植え作業などを実施した。この事業は、まちをきれいにすることや、幼児から高齢者までの異世代が交流することを目的に平成3年度から町コミュニティ運動推進協議会(工藤博朋会長)の主催で実施されている。

晴天のもと、苫前地区ではマリーゴールドやベコニアなどの花をプランターに植える作業を行った後、幼児から高齢者までが互いに交流しながら古代ロマンロードの花壇の草取りを行った。また、古丹別地区でも公民館前及び西2条線の花壇の草取りを行った後、花を植える作業を行った。参加者はきれいになったまちなみに満足そうな表情で額の汗を拭っていた。



地元の子供に地元の魚を —北るもい漁協苫前支所青年部が給食に砂ガレイ提供—

北るもい漁協苫前支所青年部(杉本武春部長)が5月31日(月)苫前でとれた砂ガレイを学校給食に提供、からあげにしたものが町内の小中学校に出された。地元でとれた魚を地域の子供も達に食べてもらいたいという目的で、1枚当たり70~100グラムの砂ガレイを340枚、青年部や女性部で食べやすいよう下処理をしたうえで提供した。普段、学校給食で出される魚は骨が抜いてあるものがほとんどで、骨やエンガワがついたままのものは初めてのこと。

古丹別小学校(岩村直幸校長)の1年生でも、からあげのカレイを前に箸をつかって上手に食べる子供もいたが、多くは手できれいに骨などを取り除き、「おいしい」と好評を得ていた。



さくらの名所に —苫前町植樹祭—

6月3日(木)苫前町、留萌南部森林管理署、留萌中部森林組合、苫前林産振興会が主催の木霊謝恩塔例祭と植樹祭が行われた。植樹祭前に行われた木霊謝恩塔例祭は、あらゆる生活に消費された木材への感謝と植樹する木々の成長を願って行われるもので、古丹別緑ヶ丘公園内の木霊塔前で約60名の参加で行われた。

今回の植樹祭は、町130年記念事業のほかニトリ北海道応援基金の助成をいただき、旧力屋小学校グラウンドである元気の森に来賓や苫前保育園、古丹別保育所園児など約100名が集まり、エゾヤマザクラ約100本を植樹した。ときおりポツポツと雨が落ちるなど曇り空の中実施されたが、来賓と園児が互いに交流しながら、この地がさくらでいっぱいになることを願いながら植樹していた。



第13回火の用心杯パークゴルフ大会



6月6日(日) 苫前パークゴルフ場において火の用心杯パークゴルフ大会が開催された。6月に火災予防週間があることやこの時期から火災が発生しやすい気候となることから、北留萌消防組合苫前支署と苫前町消防団苫前分団が主催で住民への火災予防の普及を図ることを目的として今年で13回目を迎え開催された。

北留萌消防組合苫前支署の本間光男支署長より「現在のところ本町で火災は発生していないが、火災はいつ発生するかわからないので、日頃から火気の取り扱いには十分注意してほしい」との挨拶があったあと、一般住民等約27名が青空の下、ナイスショットを連発した。

危険物安全週間における取り組み

6月7日(月) 町内で危険物安全週間における啓発車両パレードと危険物安全研修会が開催された。危険物安全週間は6月第2週(6月6日(日)から12日(土)まで)と定められており、事業所での自主保安体制の確立と住民等への危険物に対する意識の高揚、啓発を目的に全国的に開催されている。

危険物とは火災の発生・拡大の危険が大きく、消火が困難なものとして身近なものでは、ガソリン・灯油・油性塗料などであり、私たちの生活での扱いが多く、火災の9割を占めているのが現状である。

安全研修会では、それらの危険物を取り扱う事業所主が参加、火災を防ぐための正しい知識を学習し、火災発生防止を誓った。



すくすく育ってね -ラッコクラブ-



妊婦同士の交流を図り、出産に対する不安解消や親同士の交流により育児不安やストレス緩和を目的に開催されているラッコクラブの第1回目が6月8日(火)開催され、妊婦さん2名と乳児を持つ保護者4組が参加した。

乳児を持つ保護者同士が育児における悩みや不安を茶話会方式で話し、外遊びなどの情報交換、熱中症について学んだ。その後、妊婦さんを交えて出産、育児の心配について先輩ママさんからアドバイスを受けた。また、妊婦さんが乳児を抱かせてもらい、だっこの仕方や育児のコツなどの情報交換や妊婦さんのためのメニューとして豆乳のみそ汁、鶏つくねなど5品の試食も行い、互いの交流を深めていた。

交通安全指導車の寄贈

J A 苫前町(松原幸博代表理事組合長)とJ A 共済連北海道は、6月8日(火)本町に車両の贈呈を行った。これは農村地域の交通安全対策と安全な地域づくりへの取り組みを行っている各J Aと共済の地域貢献事業の一環として実施しているもの。

贈呈式で松原組合長は「農作業の繁忙期は時節柄多くの車両が通行し、事故の危険が増す。事故撲滅のため住民の交通安全に役立ててほしい」と述べ、共済連旭川支所の西村雅昭支所長からの趣旨説明のあと、松原組合長から森町長に目録が手渡された。

1500cc4WDのセダンタイプ普通乗用車に「交通ルールを守ろう」と文字が書かれた車体と、大・中・小ワンセットのチャイルドシートも贈られ、交通安全教育のため使用される。



暑さに負けず元気ハツラツ! -第29回高齢者ゲートボール大会-



第29回目を迎える高齢者ゲートボール大会が苫前町130年記念事業として6月11日(金)古丹別ゲートボール場で開催、5チーム30名が日差しが照りつける中熱戦を繰り広げた。

小平町で開催される留萌支庁地区高齢者ゲートボール交歓競技大会の予選も兼ねており、参加選手もはつらつプレイが目立った。結果は、平成会チームが昨年の雪辱を果たし優勝。長島チームが2位、大翔会チームが第3位となり、上位2チームが留萌支庁地区の大会の出場権を獲得した。

平成会メンバー

千葉 トミ、丹羽 君江、伊藤 稔、十川 猛、大村 友治、関 優美子



笑い、泣き、
叫び、励まし合った **運動会・体育大会**

「**文芸**」

(短歌)

お早ようと告げる雀の鳴く声に窓辺の朝顔目を覚ましゆく
吾が窓に對い咲きにし雪柳花の白さにせまる黄昏
古丹別 大矢根亮子

ひと群の都忘れを降る雨に濡れるひととき倦怠の貌
朱の色と兆す薔薇や窓際の黄昏の笑み花芯に届く
札幌市 住吉 美恵

戦争と平和の中のまぼろしの父が恋しき力キツバタ咲く
私分けふから薔薇を愛します都忘れのうすむらさきよ
古丹別 木幡とく子

干したての洗濯物を畳みつつひと日の温み頬にあており
海の水まだ冷たくて細波の浜辺の小石お手玉にする
古丹別 桑 風

(俳句)

浜風に わかめふすまが なびきおり
朝の市 背黒くイカの 並びおり
古丹別 桑 風

祭笛 親子で「ワッショイ」 樽みこし
半夏過ぎ 秋の気配が 頬撫でる
古丹別 林 千代美

(文責・大矢根)

(川柳)

仕分け人 笑顔で財を 捻り出し
前向きの 一步に託す 老いの夢
札幌市 原 信子
気配りが 教えてくれる 人の道
苦前 斎数 範章
喜寿過ぎて 禿と白髪の クラス会
留萌市 芳賀 敏美
誤字脱字 変換ミスに 悩む老い
苦前 鎌田 信夫
(文責・鎌田)